

鶴見大学環境教育研究会のあゆみ
— 総持学園をフィールドとした環境教育実践の試み —

A History of Tsurumi University Society of Environmental Education.
-An attempt at environmental education
practiced on the fields of Soji-Gakuen.-

阿部道生・安藤 準・木村利夫・島田道子・塩澤光一・
宮川真理子・後藤仁敏・尾崎正善・小寺春人・関根 透・佐藤英文
(鶴見大学環境教育研究会)

Michio ABE, Hitoshi ANDO, Toshio KIMURA, Michiko SHIMADA,
Kouichi SHIOZAWA, Mariko MIYAGAWA, Masatoshi GOTO,
Masayoshi OZAKI, Haruto KODERA, Toru SEKINE, Hidebumi SATO

「鶴見大学紀要」第54号 第4部

人文・社会・自然科学編(平成29年3月)別刷

鶴見大学環境教育研究会のあゆみ — 総持学園をフィールドとした環境教育実践の試み —

A History of Tsurumi University Society of Environmental Education.
-An attempt at environmental education practiced on the fields of Soji-Gakuen.-

阿部 道生・安藤 準・木村 利夫・島田 道子・塩澤 光一・
宮川真理子・後藤 仁敏・尾崎 正善・小寺 春人・関根 透・佐藤 英文
(鶴見大学環境教育研究会)

Michio ABE, Hitoshi ANDO, Toshio KIMURA, Michiko SHIMADA,
Kouichi SHIOZAWA Mariko MIYAGAWA, Masatoshi GOTO,
Masayoshi OZAKI, Haruto KODERA, Toru SEKINE, Hidebumi SATO

・はじめに

鶴見大学環境教育研究会 (Society of Environmental Education: 以下SEE) は、鶴見大学、鶴見大学短期大学部、附属高等学校・中学校、三松幼稚園の構成員を対象として、自然観察や自然体験、環境に触れ、考える会として2001年に設立された。設立当時はCONE(自然体験活動推進協議会)の自然体験活動リーダー資格のためのカリキュラム対応を行い本学学生の資格取得の窓口となる他、学内の自然観察会や学術講演会の主催を通じて広く自然環境に触れるきっかけづくりを行ってきた。SEEは総持学園としては初の全学横断組織として認定されたものである。SEEの構成員は総持学園の教職員、および学生であり、生物部のように部活動として団体会員登録をしている組織もある。

本稿では、2016年現在までのSEEの主たる活動を報告するとともに、全学横断組織としての環境教育への取り組みや今後の活動の方向について考察する。

・鶴見大学環境教育研究会の沿革

1993年に制定された環境基本法では、環境保全のための施策の一つとして27条に環境教育・環境学習及び環境保全活動の促進のための情報の提供が定められている。また、関連法の一つである「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」(2003年)では学校や職場での環境教育の支援をうたっており、これらを受けて文部科学省でも2008年から学習指

導要綱の中に環境教育の項目を追加している。その中では20世紀に入ってからの自然破壊、環境破壊、エネルギー問題などへの危機感から、環境についての理解と環境保全のための取り組みが重要視されている。

そういった、環境教育についての関心を受け、鶴見大学内でそれまで環境教育に取り組んでいた教員有志による学内任意団体として、2001年に設立されたものがSEEである。都市部に位置する大学でありながら、総持寺の千年の森をはじめとする自然環境にも恵まれたキャンパスを拠点とし、環境教育の実践に対する取り組みを開始した。同年6月には自然体験活動推進協議会(CONE)の特定指導者養成団体としての認定を受け、希望する学生には自然体験活動のリーダー資格(CONEリーダー)を取得できるカリキュラムの提供を開始した。

環境教育に携わる教員のみではなく、自然体験や自然環境に興味を持つ教職員、学生も会員として活動に参加し、自然観察会や学術講演会をきっかけとして環境教育に触れるきっかけをつくってきた。結果として、組織の壁を超えた活動が可能になり、2003年には鶴見大学の公認団体として認められるに至っている。

主たる活動は自然観察や講演会を中心とした環境教育に関連する学びや体験の場の提供である。学内の自然観察会のほか、外部講師を招いて環境に関連する講演会の主催、会員による環境教育の実践に関わる学会発表や論文作成など、幅広い活動を行なっている。毎年次毎にSEEの運営、活動、および会員の環境教育に



図 2: 本山との協働による樹木名札の作成



図 3: 設置された樹木名札



図 4: 夏季のビオトープメンテナンス

鶴見大学ビオトープにおける生態調査

2009年に歯学部2号館裏に造成されたビオトープについて、造成時から環境調査を行ってきた。整地された状態で植栽された種のほか、そこにさらに移入してくる種について定期的な観察会を主催して調査を行った。ビオトープ内に見られる生物種数は造成直後には植物12種、動物3種だったものが、最終的に2010年には植物種228種、動物種50種を数えるに至っている（阿部他2011）。SEEではビオトープでの定期自然観察会のほか、会員の担当授業内でフィールドとしてビオトープを利用する、実習教材をビオトープから採取する、といった利用や、近隣からの意見を受けて夏季には池の掃除を含めたメンテナンス、冬季には枯れた草本の整理等も行ってきた（図4）。現在、大学校舎の耐震工事をきっかけとして、ビオトープは工事関連の場所として使われており、残念ながらビオトープとしての活用は中断している状態である。

徳善寺自然観察会

SEEの尾崎会員が住職を務める横浜市瀬谷区徳善寺のご厚意により、2008年から毎年春に徳善寺自然観察会を開催させていただいている。徳善寺の敷地内には広い自然環境が保存されており、様々な春の植物を観察できる。また、竹林の見学の際には筍掘りの体験もさせていただいており、大学の新生や新規会員にとっ



図 5: 徳善寺自然観察会での様子

での自然体験としても好評である。（図5）

学術講演会

2003年以降、SEEとして毎年学術講演会を企画・開催している。これは、鶴見大学内外から講師を招き、特定のテーマについての講演会を開催することでSEE会員をはじめとした人々の学びのきっかけとなることを目的とした活動である。幅広い分野から様々な専門についての話題をわかりやすく伝えてもらうことを主

眼としている。また、対象をSEE会員に限らず広く興味のある人とし、可能であれば学生さんにも多く参加してもらえるように配慮している。これまでの学術講演会のリストを表2に示す。

表2:これまで開催してきた学術講演会

開催年	講演タイトル・講師
2003年	「健康増進法と環境教育」 ・たばこ対策の推進を考える 青山旬 (国立保健医療科学院 疫学部) ・鶴見大学におけるタバコ喫煙の意識調査 阿部道生 (鶴見大学 生物学)
2004年	「たばこ対策の推進を考える」 ・喫煙/防煙教育への取り組み キャンパス内全面禁煙宣言 大野誠 (日本体育大学 健康管理センター) ・鶴見大学における喫煙の実態および意識調査 阿部道生 (鶴見大学 生物学) ・禁煙推進を考える -医療専門職者として 瀬戸皖一 (鶴見大学 口腔外科学講座 NPO法人アジア対口腔癌協会)
2005年	「総持学園の自然」 ・生きものマップ 佐々木史江、阿部道生、佐藤英文、(鶴見大学生物部) ・總持寺のお墓をめぐる 尾崎正善、関根透、後藤仁敏 (SEE) ・ミツバチの世界 佐藤英文 (SEE)
2006年	「神奈川県の名木古木」 池本三郎 (日本樹木医会) 「蛾の話 -冬に出現する蛾-」 中島秀雄 (鶴見女子中学・高等学校)
2007年	「神奈川県絶滅危惧植物」 田中徳久 (神奈川県立生命の星・地球博物館) 「地球温暖化と蝶の話」 高水正明 (鶴見大学歯学部附属病院総合歯科)
2008年	「クモのいろいろ」 谷川明男 (東京大学大学院 生物多様性科学研究室) 「神奈川県シダ植物」 北川淑子 (東京大学大学院・緑地創成学研究室)
2009年	「玉川学園の環境教育について」 干場英弘 (玉川大学 農学部) 「鶴見大学のエコ・ビオガーデンについて」 宮本永浩 (鶴見大学生物部) 「赤い風車のフェリス -エコキャンパスと学生の環境活動-」 佐藤輝 (フェリス女学院大学 国際交流学部)
2010年	「鶴見大学のエコ・ビオガーデンについて (鶴見大学生物部)」 「クマムシの話」 鈴木忠 (慶應義塾大学 医学部)
2011年	「鳥と高原のノート」 渡部尚久 (元 神奈川県立かながわ農業アカデミー校長)
2012年	「蛾 イモムシ・ケムシのはなし」 中島秀雄 (日本蛾類学会・鱗翅学会会員・鶴見大学附属高校元教諭)
2013年	「サメの歯をたずねて50年 -サメザメと泣くサメの歯研究の物語」 後藤仁敏 (鶴見大学短期大学部 歯科衛生科)
2014年	「クジラから見た深海生態系」 藤原義弘 (海洋研究開発機構)
2015年	「世界自然遺産小笠原を守る為! …固有種と外来種の島」 加藤仁 (一般社団法人 日本森林技術協会)
2016年	「ヒトが獲得した咽頭」 小寺春人

学会発表

SEEとしての活動の内容や、会員の環境教育に関わる活動については学会での発表を行ってきた。団体会員として参加している生物部の学生さんによる発表もあり、幅広い環境教育の一環として役立っている。表3にこれまでSEEとして行ってきた学会発表をまとめた。

表3：SEEとして行った学会発表

発表年	学会名	演題名
2002年	日本環境教育学会 第13回大会（仙台）	「環境レポート展開催の実践」
2004年	日本環境教育学会 第15回大会（東京）	「CONEリーダー養成科目としての野外学習」 「鶴見大学における喫煙の実態および禁煙に対する意識調査 -II」
	第60回 鶴見歯学会	「鶴見大学における喫煙の実態および禁煙に対する意識調査 -III」 「鶴見大学教職員に対する喫煙等の実態調査」
2005年	日本環境教育学会 第16回大会（京都）	「鶴見大学における喫煙の実態および意識調査 -IV」
	日本禁煙科学会 第1回学術総会（京都）	「鶴見大学における喫煙の実態および愛情卒煙への取り組み」
2006年	日本環境教育学会 第17回大会（札幌）	「CONEリーダーフォローアップ研修としての学外研修」 「鶴見大学における喫煙の実態および意識調査 -V」
	日本公衆衛生学会 第65回総会（富山）	「大学教職員に対する喫煙対策への取り組み」
	第64回 鶴見歯学会	「18年度鶴見大学教職員に対する喫煙の実態（第2報）」 「鶴見大学における喫煙の実態および意識調査 -VI」
	日本禁煙科学会 第2回学術総会（奈良）	「鶴見大学における喫煙の実態および愛情卒煙への取り組み -第2報」
2007年	日本禁煙科学会 第3回学術総会（東京）	「鶴見大学における喫煙の実態および愛情卒煙への取り組み -第3報」
	日本環境教育学会 第18回大会（鳥取）	「地域における鶴見大学生物部活動の果たす役割」 「動物園における歯学生命倫理と環境教育の実践」
	日本爬虫両棲類学会 第46回大会（沖縄）	「横浜市瀬上谷戸のヤマアカガエルとアズマヒキガエルの卵塊数について」
2008年	日本禁煙科学会 第4回学術総会（金沢）	「鶴見大学における喫煙の実態および愛情卒煙への取り組み -第4報」
	第68回 鶴見歯学会	「鶴見大学における喫煙の実態および意識調査 -VIII」 「鶴見大学における喫煙の実態 第3報：20年度調査」
	日本環境教育学会 第19回大会（東京）	「新横浜公園をフィールドとした環境教育の実践」
2009年	日本禁煙科学会 第5回学術総会（徳島）	「鶴見大学における喫煙の実態および愛情卒煙への取り組み -第5報」
	日本環境教育学会 第20回大会（東京）	「新横浜公園をフィールドとした環境教育の実践 -第2報」
	第70回 鶴見歯学会	「鶴見大学エコビオガーデンにおける生きもの調査の経過報告 I」 「鶴見大学における喫煙の実態および意識調査 -IX」
2010年	日本自然保護協会 市民調査全国大会	「総持学園の自然環境 -環境教育の実践-」
	第72回 鶴見歯学会	「鶴見大学における喫煙の実態および意識調査 -X」
2011年	日本禁煙科学会 第6回学術総会（沖縄）	「鶴見大学における喫煙の実態および愛情卒煙への取り組み -第6報」
2012年	日本禁煙科学会 第7回学術総会（盛岡）	「鶴見大学における喫煙の実態および愛情卒煙への取り組み -第7報」
	日本爬虫両棲類学会 第51回大会（東京）	「円海山周辺域のヤマアカガエルの産卵状況 -氷取沢市民の森の水辺環境の復元管理について」
2013年	日本禁煙科学会 第8回学術総会（群馬）	「鶴見大学における喫煙の実態および愛情卒煙への取り組み -第8報」

2014年	日本禁煙科学会 第9回学術総会（福岡）	「鶴見大学における喫煙の実態および愛情卒煙への取り組み－第9報」
2015年	日本禁煙科学会 第10回学術総会（横浜）	「鶴見大学における喫煙の実態および愛情卒煙への取り組み－第10報」
2016年	日本禁煙科学会 第11回学術総会（京都）	「鶴見大学における喫煙の実態および愛情卒煙への取り組み－第11報」

論文発表

学会のほか、ある程度活動内容がまとまった段階での活動から作成、発表された論文を表4に示す。随時論文としての発表を行ってきた。これまで、SEE

表4：SEEとして発表してきた論文

発表年	論文タイトル及び掲載誌
2006年	「鶴見大学学生の喫煙の実態および喫煙に対する意識調査 - 2003年から2005年度調査のまとめ」 鶴見大学紀要第43号 第4部
2007年	「横浜市瀬上谷戸におけるヤマアカガエルとアズマヒキガエルの長期的なモニタリング調査」 爬虫両棲類学会報（2007-2）
2008年	「大学における環境教育の実践 - 総持学園の自然-」 鶴見大学紀要46号 第4部
2009年	「新横浜公園における平家蛸の里づくりと里親制度の実践」 全国ホテル研究会誌 「飼育下のヘイケボタル幼虫にみられた創傷について」 全国ホテル研究会誌
2011年	「鶴見大学ビオトープ（エコ・ビオガーデン）の生物環境について - 環境教育の視点から-」 鶴見大学紀要48号 第4部
2012年	「鶴見大学学生、および教職員の喫煙の実態および喫煙に対する意識調査 - 2006年から2011年度調査のまとめ」 鶴見大学紀要49号 第4部
2013年	「総持学園と總持寺境内生物の教育的及び生物学的意義 - その保護と教育的利用-」 鶴見大学紀要51号 第4部
2014年	「学生主体の活動として地域連携事業に参加した部活動の事例について」 鶴見大学紀要 第52号 第4部

鶴見大学図書館で行った活動紹介

2016年には夏季の7月18日から9月30日の期間、鶴見大学図書館のエントランススペースをお借りして「鶴見大学環境教育研究会の活動報告」展示を開催した。展示では、これまで発行してきた活動報告書、「鶴大SEE」のIからX I Iのほか、過去の学術講演会のポスター、講演会の内容に関連する図書館の蔵書、SEEメンバーによるビオトープや学内の自然環境の写真等を並べ、図書館を訪れる人たちにSEEの活動を伝えられるようにした（図6）。



図6：鶴見大学図書館での活動紹介

・まとめ

総持学園鶴見大学、鶴見大学短期大学部、附属中学・高等学校は大本山總持寺の境内にキャンパスを構え、都市部に位置しながらも自然環境に恵まれた立地である。SEEとしては、できるだけ多くの教職員、学生がこの自然環境に触れる機会を設け、自然に興味を持てるような企画をすすめていきたいと考えている。特に、自然や生きものに触れる機会の少ない世代の人たちにはぜひ在学中の自然体験を通じて環境について考えるきっかけとしてもらいたい。そのためにも、自然観察会や樹木札の追加、学術講演会といった活動を今後も継続していく。

SEEの特徴は、総持学園内の幅広い組織から会員が構成されていることであり、部局を超えたつながりや、相互の連携が期待できる。学園内の自然環境を教育の場において有効に活用するためにも、様々な情報発信を続けていく必要がある。

現在、SEEの抱えている問題は会員数の伸び悩みと、そこに起因する活動規模の縮小である。これは活動内

容が学園内で周知されていないことも原因であろう。
自然や環境に関心のある教職員、学生の皆さんにはぜひ
ひとも参加していただければ幸いである。

文献

鶴見大学環境教育研究会 活動報告書 I (2003年)～XIII (2016
年)

阿部道生、笠間慎太郎、安田麻里子、軽部裕代、佐々木史江 「鶴
見大学学生の喫煙の実態および喫煙に対する意識調査 -
2003年から2005年度調査のまとめ」 鶴見大学紀要43号 第
4部 13-20(2006)

佐々木史江、阿部道生 「総持学園の自然博物館 No.1 春夏編」
(2008)

佐々木史江、阿部道生 「総持学園の自然博物館 No.2 秋冬編」
(2009)

阿部道生、佐藤英文、後藤仁敏、塩澤光一、関根透、木村利夫、
島田道子、尾崎正善、佐々木史江 「鶴見大学学生、および
教職員の喫煙の実態および喫煙に対する意識調査 -2006
年から2011年度調査のまとめ」 鶴見大学紀要49号 第4部
109-116(2012)

阿部道生、佐藤英文、後藤仁敏、伊藤輝子、尾崎正善、関根透、佐々
木史江 「大学における環境教育の実践 - 総持学園の自然
-」 鶴見大学紀要 第46号第4部 61-74(2009)

阿部道生、佐藤英文、塩澤光一、島田道子、木村利夫、小寺春人、
尾崎正善、齊藤孝、矢作保澄、宮川真理子、後藤仁敏、関
根透、佐々木史江 「鶴見大学ビオトープ(エコ・ビオガー
デン)の生物環境について -環境教育の観点から-」 鶴
見大学紀要 第48号第4部 111-121(2011)

阿部道生、佐藤英文、関根透、塩澤光一、島田道子、後藤仁敏、
尾崎正善、市川憲章 「総持学園と總持寺境内生物の教育的
及び生物学的意義 -その保護と教育的利用-」 鶴見大学
紀要51号 第4部 77-86(2013)

阿部道生 「学生主体の活動として地域連携事業に参加した部活動
の事例について」 鶴見大学紀要 第52号 第4部 91-100
(2014)